

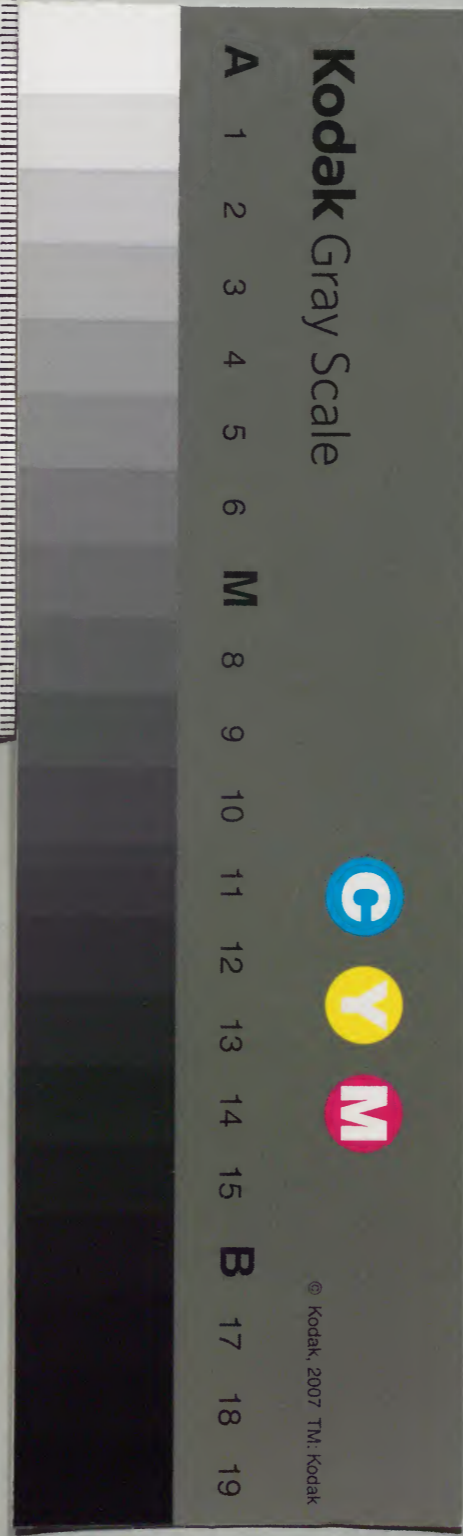
浄保物語

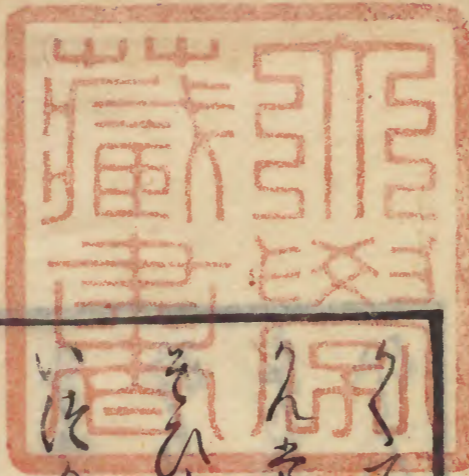
吹上
正奉下巻

今板本十の巻
古本六の巻

内閣文庫		
二〇二函	一七六六二號	和書類
二一架	三〇冊	

内閣文庫		
番號	和	17662
冊數		30 (14)
函號		202 348





て八月中の十日にわくよみしと花れんし終
んきし先みそとらちろちろくはりし終るにわ

そのひし終る門の内茶茶れさうり終れわよ
いはうととらせ終る終人か將ありまらとらとと野の

さうり八月中の十日山れさうり九月の十日

わかれよる人終る山の中よいつとらわきうら

あうらうそとらうらうらとらうらうらうらうら

山る人終るまらうらうらうらうらうらうらうら

わかれのあり人らうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうら

終る

くおれよの色うく花のさうしやうしやうしやう
年よあんちあけうあうれうん路のよこ
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
年よあんちあけうあうれうん路のよこ
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう
うの路をみまやうのさうしやうしやうしやう

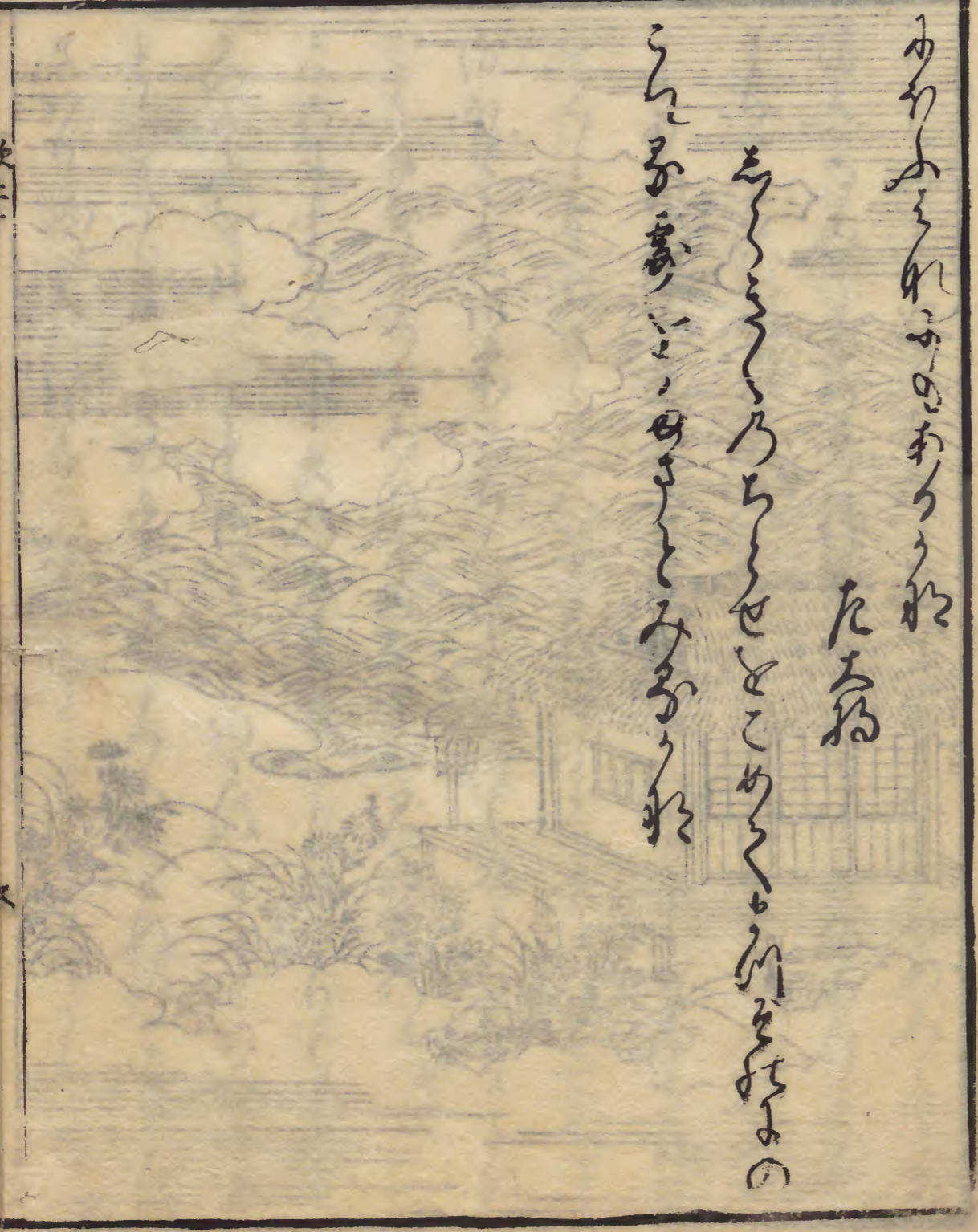
乃昔しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
うれうれうれうれうれうれうれうれうれうれ
くあせうせうせうせうせうせうせうせうせう
そやうそやうそやうそやうそやうそやうそやう
うれうれうれうれうれうれうれうれうれうれ
うれうれうれうれうれうれうれうれうれうれ
十日九日八日七日六日五日四日三日二日一日
あんとあんとあんとあんとあんとあんとあんと
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうの
よゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

わくまうりうりの若さうくとわりのしみか
 しくりてみよもの故さへ入みことほらんく
 かしからずらとせうしり
 こそまうたまふとよひうくまわく家
 のりともろくねくささるのみ
 秋わかれんそわうくめをわくものさう
 の家とるよるひさる人申勢のみ
 菊きくをれりいらくのうらひとめくれの
 らの代とのあう人考部このみ
 ちうくこのせあうそのうらばるれい
 ちうく

あわゆるれいあうわうわ

たふね

ちうくちうくちうくちうくちうくちうく
 ちうくちうくちうくちうくちうくちうく
 ちうくちうくちうくちうくちうくちうく





くしてみもつくれりて海して人うらめみこころ
けさちみうまつり。海前めいりとのわけしら
しらてらむし屋は文人うんぶん学まなぶせむとほさるみぬさ
しあれせんしうりて。庵とんさうりゆらゆら
そくしわらりて。空人めされこころよほさめい
ほれらり。海前よらんれしれつて九うらのよしれ
しうめあしうくろひのめと第一めすめくかみ
大めすしうつ十ま乃あし物し物しりしうて
ふらふとほくしとほさめいぬさうのうさり
しりしり。海ものきいぬうひこうねのこころ
まわり物めあしうどなり。みとまらうんしうりめふ

其の^たほい^まもむね^にし^りく^はお^のこ^のき^りと
 へん^まり^のい^まを^まして^いは^りお^のこ^のあ^とに^あり^し
 り^てい^ちぢ^のい^まに^あり^しく^はお^のこ^のき^りと
 の^たを^まり^のい^まを^まして^いは^りお^のこ^のあ^とに^あり^し
 り^てい^ちぢ^のい^まに^あり^しく^はお^のこ^のき^りと
 題^どに^あり^しり^て文^{ぶん}に^あり^しる^まと^しは^お
おい^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お

おい^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お
 い^まは^りと^いは^れら^れる^まと^しは^お

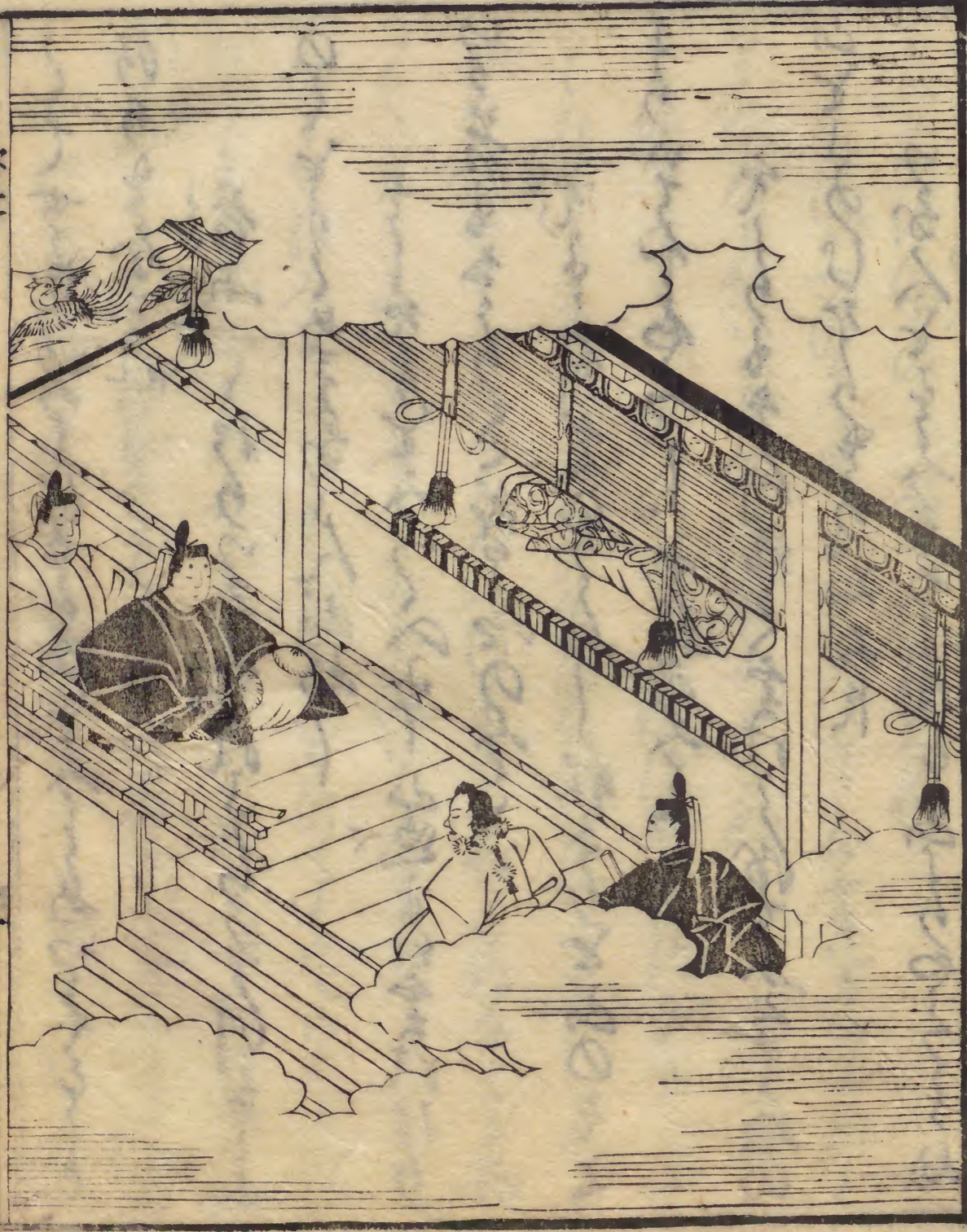
うてもしおのちをきて河をふそれよりの縁を
ちらへ海めさううよせもさくののさううり
うもみしうもさううてわが一へさうう
うもさうううもさううてわが一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわが一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう

てふりうりなれりのうもさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう
うらんとあはれいさううのりてあゆもさうう
うはうてゆもさううてわを一へさうう
ゆもさううのちをさううてわを一へさうう

七

七

やして侍とよの御侍のつらみおありとまうし
侍はゆゆとれぬいふ候えうしとまうし
侍はうりおりのゆりぬきとまうし侍は
ゆやとういふ家はみり海はけけみや侍
とまうしおありとまうしとまうし
りてぶとやとまうしとまうし海はけけみや
とまうしのねとまうしとまうしのねとま
とまうしとまうしとまうしとまうしとま
まうしとまうしとまうしとまうしとま
ゆりとまうし



くしてせりひるまじりつものさみくめくくさ
ひらきまね

若くくわりのふまねしつらそひきふ
のくさういぢうあかんぶね

そくちうとみつてくち一別はままねたり
りる若もふらりていぢうあかんぶね

若くくわりのふまねしつらそひきふ
のくさういぢうあかんぶね

若くくわりのふまねしつらそひきふ
のくさういぢうあかんぶね

ふふあねののーあかんぶね

風うけいんあまのあまひー白雲とくはれ

こわんやあまひーあまのあまひーくしてあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

あまひーあまひーあまひーあまひーあまひ

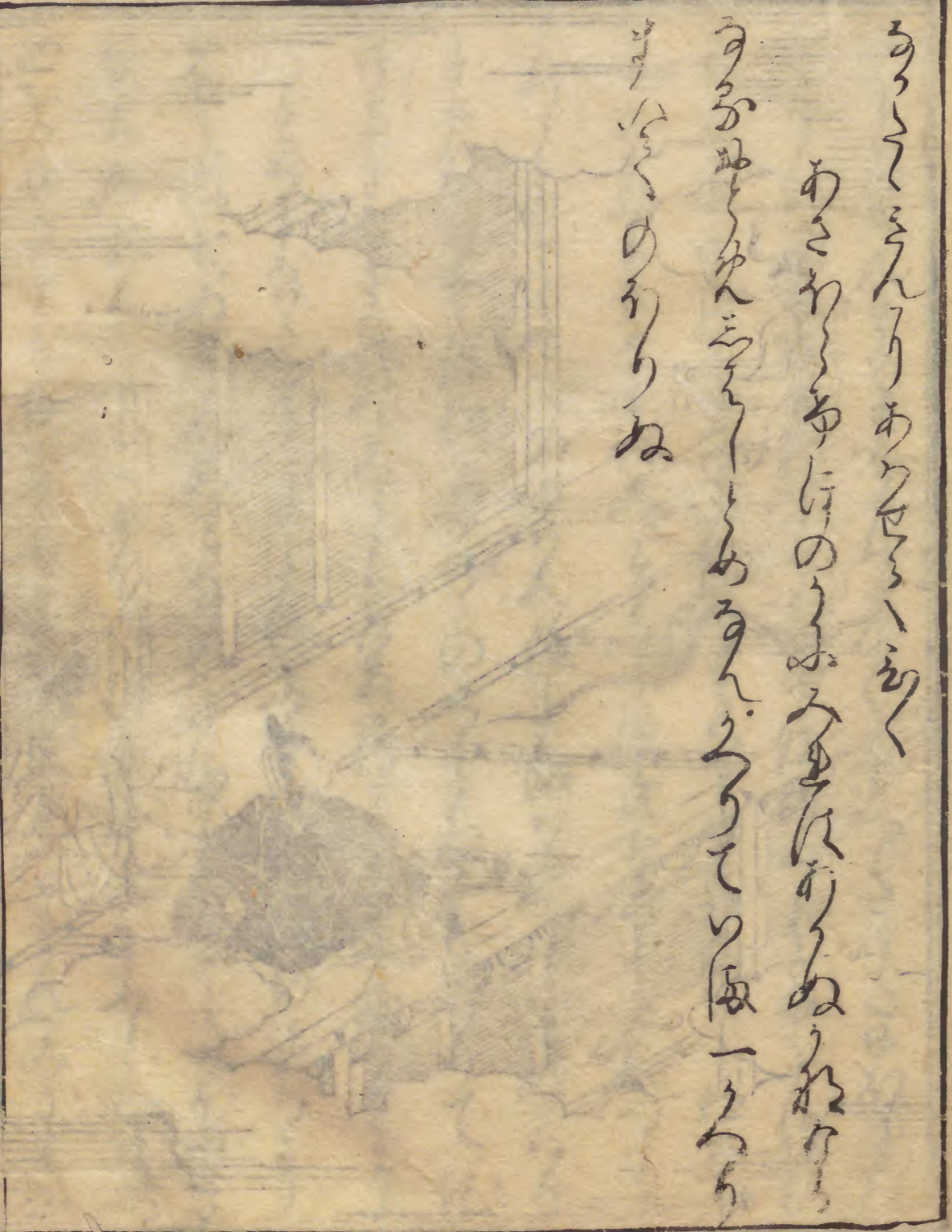
あつらひよき
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ

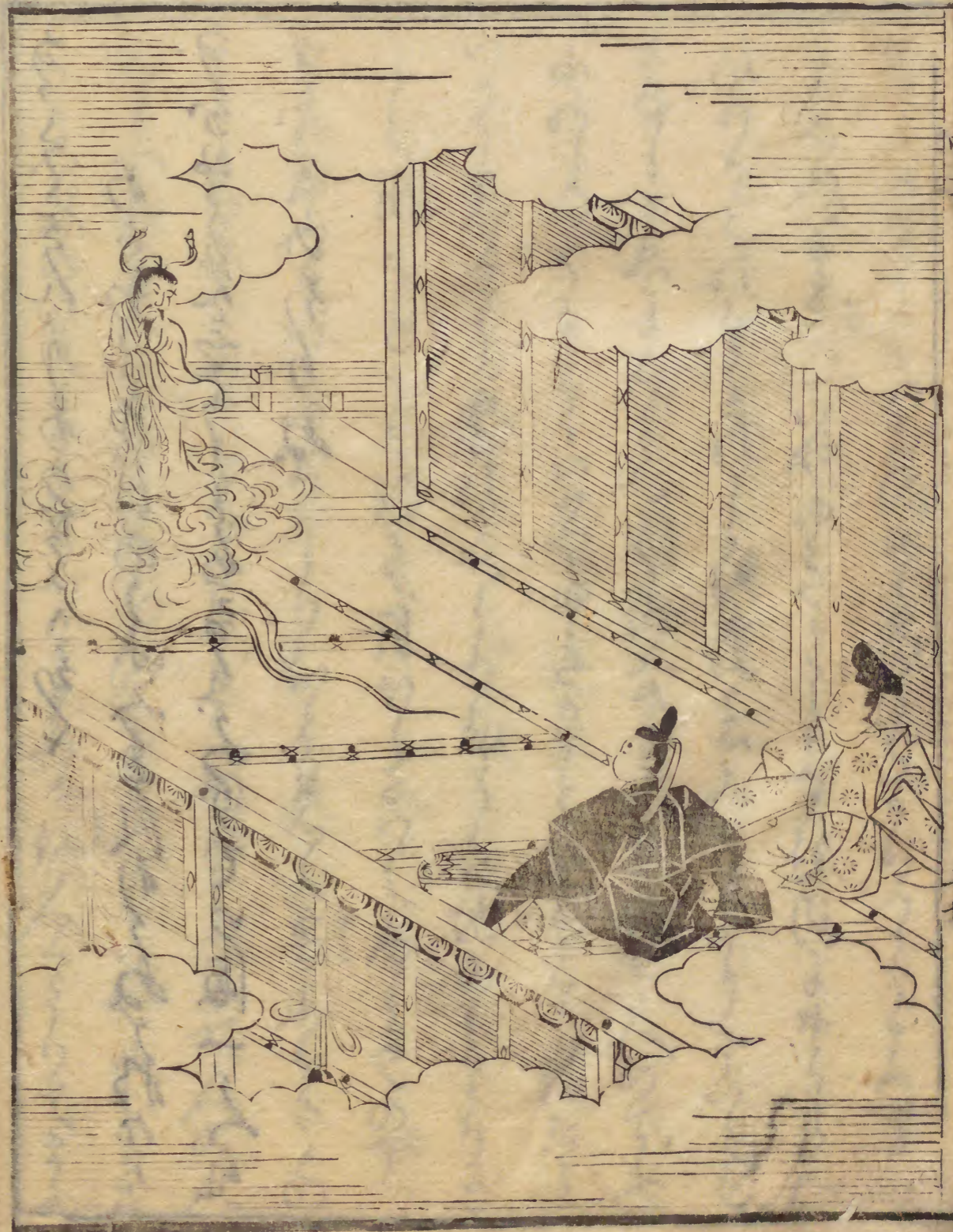
けしきよき
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ
 ぬかぬかしたるに風もたれよ

うよゆあしくいふ花ゆりくうらつらつうら
 しちぬとくくわあつらつらひはゆあゆん
 ぬわうこれとてこれいひ後まふういりうら
 ちういふよとくく結あつらつらゆあゆん
 山ゆりくともういひあつらつらゆあゆん
 つらゆりくういふあつらつらゆあゆん
 いふゆりくういふあつらつらゆあゆん
 けうあつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん
 いふゆりくういふあつらつらゆあゆん
 あつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん
 うらゆりくういふあつらつらゆあゆん

あつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん

わさわいあつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん
 うらゆりくういふあつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん
 うらゆりくういふあつらつらゆあゆんあつらつらゆあゆん





みしつらんをうよらりりかくとくさうとせむき
 をすれつらあうたくり正四位のうらぬと海ひ
 く右道中およあされぬとくしよせれ一はゆか
 一中おらうされぬとくし源氏わんをうんつ
 まうしとくもこのらん後一海りる一そのちり
 よせりらそ縁松まつのうらぬと海りて純ま
 侍めいちよあされぬとくし源氏わんをうんつ
 のとくしとくもこのらん後一海りる一そのちり
 せしぬとあまんぬとまん一海りる一そのちり
 子よ將りあし一とせりあびよとあまんぬと
 物と海りる一とくしとくもこのらん後一海りる

何れもすなわしうせぬをありてのせしめ
 らばもくしあつくりしはぬらんまをせむ
 こそおのほひゆあむしつらぬもきくし
 ういひれくくりあふんさやきつれぬ
 くゆひいゆわこころをさそひ
 こころのろくされきくしうあそ
 よいこころの心^{おん}五^ごのせつあん
 ちよとあせつ家もくしうた
 ちよと又くしうし位^か記^さ西^{さい}前^{ぜん}と
 おみやしうし位^か記^さのふよく
 松風しうれあそは紫^{むらさ}のうれは

せいもそめんてんあう
 けつはよそむ家のあうし
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 秋うしむ人のまのぬきし
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく
 ちよと又くしうし位^か記^さのふよく

めもつらふらつらわらふ事とやあしくさくしあつて
くぬきつていそね松きれつらう人ゆるさ世せん
くつりてあつりのわりぬ院のみしゆらうさあわ
しせ給あつあくの羽長ひさつこつとくけれ羽長
てよまふふさふさうりあつてきくし人きれりの
ぢりぢりれらふくくしそりやゆれとひら
ましきくのいやゆれつゆたりいやゆれつ
く三十いねんきさきききとしてほぐんあつて
れ余いのりれらやゆれつゆらうつらうしそき
らつせあふ中おさくしそりやゆれつ
どうくれていそね松きれつらう人ゆるさ世せん

つらふらつらわらふ事とやあしくさくしあつて
くぬきつていそね松きれつらう人ゆるさ世せん
くつりてあつりのわりぬ院のみしゆらうさあわ
しせ給あつあくの羽長ひさつこつとくけれ羽長
てよまふふさふさうりあつてきくし人きれりの
ぢりぢりれらふくくしそりやゆれとひら
ましきくのいやゆれつゆたりいやゆれつ
く三十いねんきさききききとしてほぐんあつて
れ余いのりれらやゆれつゆらうつらうしそき
らつせあふ中おさくしそりやゆれつ
どうくれていそね松きれつらう人ゆるさ世せん

すしとうとて院のみまじゆらりさあられうせつ
くしてまじらひのみにうりやうすすらう
泉^ぎびうらめまこころはさうまうゆり
かんあうりやあまい^なまよのうらぐられ
あまうらんしゆつしてあく^やあれ^こあ
あまきゆうてほは三条よおあはくつ
みうこのうらうらうらうらうらう
あまうく^うのうらう^う代^え金^ん銀^{ぎん}ありよ
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう

あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう
あまうあまうあまうあまうあまう

君とてしるべきくはとていふ。あまのりむのの一條は
しよとていふ。あまのりむのの一條は
よ。あまのりむのの一條は
れ。あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
ありき。あまのりむのの一條は
と。あまのりむのの一條は
め。あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は

世あり。あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は
あまのりむのの一條は

千らのりくもひもつれふて成さく
たのありふる月太将後にはこのりま目
あつ月にはむつきてもあつてあつた
あそつあつりる平中絶え十月つあつた日
つとつあつてあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

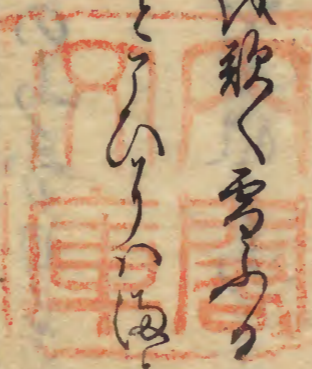
一頁上

七〇七

てそいへくふりあひしき末依ものふまのりと矢
のうらみまじりくわりの月より清前志他
よりあまのうらみとて

これよりうらみはしるべきもの

あまのうらみはあひ六十余日たりりそ
うらみせんといふからぬいそく。年比書と
子のうらみはしるべきはあひ六十日たりり
花のうらみはしるべきはあひ六十日たりり
うらみはしるべきはあひ六十日たりり
うらみはしるべきはあひ六十日たりり
うらみはしるべきはあひ六十日たりり



[The left page of the manuscript is mostly blank, showing the texture and aging of the paper.]

